

専門学校デジタルアーツ仙台 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台では、本校規程に基づき、令和2年8月5日に、学校関係者評価委員会を実施いたしました。内容について以下のとおりご報告いたします。

今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、各委員からのご意見やご指導等を真摯に受け止め、教職員一同努力してまいります。

会議名：専門学校デジタルアーツ仙台 学校関係者評価委員会

日時：令和2年 8月5日（水） 15：00～16：30

会場：専門学校デジタルアーツ仙台 2階 ITスタジオ

【学校関係者評価委員 出席者】

氏名	所属等
委員長 渡邊 孝博	株式会社 オンサイト 代表取締役
副委員長 小野寺 千代志	株式会社 EAM 代表取締役
布川 博士	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授
岸浪 行雄	株式会社 東北共立 代表取締役
武藤 政寿	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会代表理事
大津 知士	株式会社 VISIT 東北 執行役員
金塚 弘	株式会社 メディアPR 代表取締役
菊地 新生	NPO 法人 とっておきの音楽祭 事務局長
落合 泰朗	本町新光町内会 会長
餅 祐一	卒業生（俳優、タレント業）

【事務局 出席者】

氏名	所属等
菅原 淳	学校法人菅原学園 法人本部長
戸叶 一人	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
櫻井 潤	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 教務課長
鈴木 理	専門学校デジタルアーツ仙台 学生課長
三浦 和音	専門学校デジタルアーツ仙台 教諭（書記）

渡邊委員長進行による自己評価に関する討議、意見交換

(1) 教育理念・目標

<教育理念・目的について>

4月のオリエンテーション時に配布する学生生活マニュアルに明記されており入学時に説明している。また、教育目標・人材育成像については、ホームページで公開している他、パンフレットにも掲載しており周知している。

<社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想について>

令和元年度に「情報システム科」を立ち上げ社会のニーズに必要であるIT、IOT、AI等における分野の人材育成にも取り組んでいる。また、デザイン科においては、動画サイトが普及したことにより、広告業界でも映像の知識が必要となっていくことを踏まえて、「映像デザインコース」を設置し、社会のニーズに応えるようにした。

(2) 学校運営

<学校運営に関する意思決定機能について>

学園規定において明確にされており、有効に機能している。

<情報システム化等による業務の効率化について>

インターネットを活用したコミュニケーションツールを利用し情報の共有化を行っている。また、令和元年度から「学生募集マーケティングシステム」を取り入れ、入学前から卒業に至るまでのサポートが出来る体制を整えている。

(2) 教育活動

<関連分野の企業連携等によるカリキュラムの作成見直しについて>

職業実践専門課程における教育課程編成委員会(年2回開催)を開催し、企業連携及び、業界団体等と連携し、カリキュラムの作成見直しを行っている。

<シラバス(授業計画)について>

教科により表現方法にばらつきがある。授業を受ける側の学習の指針になるのでどの教科も、学生側から見てわかりやすいシラバスに改善する必要がある。

<授業評価の実施・評価体制について>

昨年度に比べ、授業評価の実施・評価体制が実施できている。なお、評価については、個人の平均点を用いて客観的な指標の算出方法にて度数分布表を作成し情報公開している

<教員研修について>

学科により実施回数などばらつきがある。教員の研修については、「教育の質の向上」を図るためにも、積極的に実施する必要がある。

(4) 学修成果

<就職率向上について>

クラス担任が中心となり、個人面談で学生個々の状況を把握し、就職情報提供については、キャリアサポートセンターから情報提供を受け、昨年度と比較し、就職率は向上した。

<退学率の低減について>

退学率について、学科によりばらつきがあるものの、昨年度と比較し、退学数は減少している。退学防止対策として学生が多様化するなか、メンタル面のアンケートを実施の他、スクールカウンセラーによる面談等を実施し退学率の低減を図っている。

(5) 学生支援

<学生の就職・学校生活などの支援体制について>

キャリアサポートセンター（菅原学園4校で連携）において求人情報などについてデータベース化を行い学生に対して、情報提供を行っている。また、クラス担任及び、キャリアサポートセンターが連携し就職支援を行っている。

学校生活面については、クラス担任のサポートの他、2人の教頭による学生面談を実施し学校全体で学生支援を行っている。

<学生の経済的側面に対する支援体制について>

菅原学園奨学金、菅原学園入学サポート制度の他、高等教育の修学支援新制度の対象校として、経済的な支援が必要な学生に対して支援している。

<高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組について>

高校側からの要請で、イラスト・マンガアニメ系の教員を派遣している他、IT、CG系の特別授業を実施し専門技術への関心を高める支援を行っている。今後、他の分野についてもキャリア教育・職業教育の支援を行って行きたい。

(6) 教育環境

<教育環境の整備について>

施設・設備については、年間の予算に応じて適切に対応しているが、学科によっては、最新の設備を導入したい。

<インターンシップについて>

学生の希望に応じてインターンシップを実施している。

<防災について>

危機管理マニュアルを見直し、防災時の体制を整えている。また、本町商店街振興組合及び本町新光町内会と連携をとり、学校へ隣接する瀧沢神社に非常用の備えを準備している。今後は、本町商店街振興組合及び本町新光町内会とともに、防災対策に取り組み非常事態には、校舎を避難所として活用できるよう整備したい。

(7) 学生の受け入れ募集

<学生募集活動について>

入学相談室を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスについて適正に行われている。

(8) 財務

適正に行われている

(9) 法令等の遵守

適正に行われている。

(10) 社会貢献・地域貢献

<社会貢献・地域貢献について>

仙台市民型参加型の音楽イベント（とっておきの音楽祭、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、仙台ゴスペルフェスティバル）のステージ運営などに積極的に参加し学生達がイベントをサポートしている。これらのイベントは、職業実践専門課程の授業の一環として実施しており、イベントの準備段階から本番まで、実践としての経験を積むことができ有効である。

また、本町商店街振興組合が「本町ファーム」（お米を作り販売する企画）では、デザイン科の学生がデザインした米袋のパッケージ「恋する二入」を企画段階から参加し、地元商店街に貢献した。

今後も、社会貢献・地域貢献に努めたい。

<地域に対する公開講座について>

CSS Nite (Web制作に関わる方のためのセミナーイベント)を開催。デザイン科の学生が運営をサポートしながらイベントに参加。また、Global Game Jam (世界100以上の国で開催)で同時にゲーム制作を行うイベント)の仙台会場として開催。ゲームクリエイター科の学生が参加。このような公開講座を今後、増やし地域に貢献したい。

(11) 国際交流

出入国在留管理局から、留学生の在籍管理が適切に行なわれているとして、『適正校』として選定されており、適正に行われている。